

## 》商工会議所活用レシピ

FILE 17

ことしでちょうど100周年！  
大曲の花火はますます進化



カネトク卸総合センター株式会社  
代表取締役  
小西 亨一郎さん

花火は、わが社の本業である酒の物販とは直接関係ありませんが、私が心から愛するものの一つです。地元では「花火は人生そのもの」と言ってはばからない人も多くいます。そんな土地柄ですから、「全国花火競技大会（通称「大曲の花火」）」は、この地域にとつてなくてはならないもの。大会の成功は、地域の活性化に必要不可欠です。

し、最適な協力体制を形成してくれます。わが家は代々、大会の運営メンバーになっており、私も毎年準備に奮闘しています。特に当日は多忙を極め、自分のお店にはまづ顔を出すことができません。一年で一番もうかる日に店を空けることになりませんが、ビジネスチャンスを見逃すことなく段取りを組んで対応しています。

会が生かされていると思います。大会の運営に当たっては、観覧者のリピーター化を目標に掲げました。まずは当たり前前のご当たり前にできるよう、きちんと段取りを組んで実行しています。その上で、心を込めたおもてなしをすれば、結果は後からついてくる。そう信じています。

68万人の来場者を迎える一大イベントですから、民間企業だけでは運営できません。そこで、この大会の事務局全般を務めているのが大曲商工会議所。地域での信頼が高い団体だからこそ、市や関係当局などとの連携も非常にスムーズです。もちろん飲食店や宿泊施設、旅行代理店など、事業者の立場を考えた上で調整

自分たちの努力が地域経済の潤いにつながるのであれば、これは本当にうれしいことです。こうした活動を、もっと多くの人々に経験してもらいたいですね。しかも、その効果は地元だけではなくありません。近隣の市町村や、県外の事業者からも感謝の声が寄せられています。大曲と他地域との良好な関係構築に、花火大

また、常に変化を求めるとリピーターに目新しさを提供したいと考え、わが社では、「火薬豆」という新商品をつくりました。花火の星を模したスナック菓子で、ピーナッツをサクサクの黒い竹炭で包んだもの。岩塩がアクセントになり、おいしいと好評です。この8月で100周年という節目を迎えるこの大会。ますます進化させるため、商工会議所の皆さんと一緒に頑張りま

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言



大曲商工会議所(秋田県)  
経営指導員  
長谷川 壘

大曲の花火大会は、明治33年8月に行われた「奥羽六県煙火共進会」が起源。昭和30年代には、大曲市商工会（現在の大曲商工会議所）の主催となりました。38年には「通商産業大臣賞」（現在は経済産業大臣賞）が、平成12年には内閣総理大臣賞が付与された、全国的に有名な夏の風物詩です。100周年を迎える一大イベントを主催する重責はありますが、これは商工会議所が社会的に認められている証しでもあります。

景気低迷が長期化し、中止になる花火大会が相次いでいますが、私たちはこれからも、小西さんをはじめとする地元有志と力を合わせ、この大会を続けていきます。